

2. 第一東和会病院 地域医療従事者研修会のご案内

10月及び11月開催予定の地域医療従事者研修会は下記になります。



①演題：「『音楽療法』をご存知ですか？～音楽療法が可能とする本当のトコロ～」

講師：同志社女子大学 学芸学部音楽学科 助教 北脇 歩 先生

座長：恭生クリニック 医師 近藤 敬一郎 担当：音楽療法士 中村 裕美子

日時：2020年10月17日（土） 14:00～15:00

内容：今回、同志社女子大学 北脇先生をお迎えし、様々な事例を交えながら「音楽療法とは何か」をご講演いただきます。

②演題：「認知症高齢者に対するリハビリテーション」

～介護老人保健施設・デイケアでの取り組みを通して～

演者：介護老人保健施設 サンガピア館 作業療法士 芝田 哲也

日時：2020年11月12日（木） 18:00～19:00

内容：認知症ケアのプロフェッショナル集団が在籍している介護老人保健施設やデイケア（通所リハビリ）を利用することで、どのような効果が期待できるか、東和会グループにおける認知症ケアの取り組みを通してご紹介いたします。

研修会場：第一東和会病院 5階会議室

お申し込みは、「輪」に同封しております、「第一東和会病院 勉強会参加申込書」をFAXしていただくか、もしくは、地域連携室(072-671-1118)までご連絡をお願いします。

第一東和会病院、第二東和会病院 地域連携室

TEL 072-671-1118（第一）

FAX 072-671-1090（第一）

受付時間（第一）

平日 8:30～19:00

土曜 8:30～17:00

時間外休日

072-671-1008（代表）

E-mail renkei@towa-med.or.jp



医療法人 東和会

第一東和会病院

3. 新入職医師のご紹介

健診科に新しい医師が入職いたしました。これからも、先生方・地域の患者さまのお力になれますよう努めて参ります。今後ともよろしく願いいたします。

健診科 そのだ 藺田 徹 医師

9月より、健診科に赴任いたしました藺田 徹です。卒後、地域医療に携わったのち、約10年大阪の健診センターに勤めておりました。これからの高齢化社会においては、疾患の予防や早期発見がますます重要となっております。今までの経験を生かし、人間ドックや健診のさらなる普及に努めていきたいです。



All you need is love ...

発行日 2020年 9月 1日
第6巻 第6号



医療法人 東和会

第一東和会病院

TOWA ～架け橋～

Monthly NEWS

連携診療所向け月刊情報誌

輪
わ

撮影者：医局長 兼

内視鏡外科センター副部長

千野 佳秀

目次

	Page
急性腹症(腹痛)	1
ホットラインについて	
"	2
"	3
地域医療従事者研修会	4
新入職医師のご紹介	4

1. 急性腹症（腹痛）ホットラインについて

第一東和会病院 副院長兼内視鏡外科センター長 佐藤 功

平素より地域の先生方には大変お世話になりありがとうございます。今年は新型コロナウイルスの流行で、先生方も大変ご苦労されておられることと思います。ワクチン・特効薬が開発され、少しでも早く終息し日常生活や診療に戻れることを願っています。当院では、大阪府（保健所）からの要請で本年2月から帰国



者・濃厚接触者外来（PCR検査）を開始、また高槻市医師会からの要請で「高槻市新型コロナウイルス地域外来検査センター」を8月から運用開始しました。病院を挙げて感染対策を行っており、おかげさまでクラスターの発生することなく日常診療を支援なく続けています。

・急性腹症センター及び専用ホットラインを開設

さて以前にもご案内していますように、2018年11月から急性腹症センターを立ち上げ、「急性腹症専用ホットライン」の運用を開始しました。もともと当院では急性腹症（吐血・下血を含む）に対する緊急手術（年間約200件）・緊急内視鏡処置（年間約200件）を積極的に行ってきましたが、患者さまのご紹介・受け入れをさらに迅速・スムーズにするため、急性腹症センター及び専用ホットラインを開設しました。

地域医療支援病院
第一東和会病院 急性腹症センター
ホットライン運用開始

2018年11月から、当院にて急性腹症センター専用ホットラインの運用をしております。24時間365日対応可能な体制で、患者さまに、内科・外科エキスパートドクターによる低侵襲の救急医療を提供いたします。

理事長 大西 恭子

急性腹症センター専用回線
072-671-1500（直通）
072-671-1008（代表）

救急医学会専門医
内視鏡外科技術認定医
田畑 智丈

外科学会専門医
内視鏡外科技術認定医
為岡 成佳

消化器内視鏡学会専門医
橋本 賢

急性腹症を疑う症例は、
迷うことなく
ホットラインにコールしてください。



北摂地域 No.1の急性腹症センターを目指します！！

急性腹症センターの専門診療

- 24時間365日、全ての検査を駆使し正確な診断を行います。
- 内視鏡外科医9名全員が技術認定医による安心・安全な手術を行います。
- 吐血下血には内視鏡内科医（7名）で迅速に対応可能です。
- 2018年度の緊急手術件数は208例です。2019年6月に内視鏡外科センターの手術件数が10,000例を達成しました。
- 泌尿器・婦人科領域の疾患も対応可能です。



急性腹症センターの意義

- 急性腹症に対する診療・処置・手術の専門性・迅速性の確保
- 急性腹症診療における地域医療連携体制の確保
- 急性腹症疾患の地域への啓蒙

このことは読売新聞社発行の「病院の実力」2019総合編にも紹介されました。

急性腹症というのは、急に激しい腹痛を伴い、早急に診断・手術を必要とする疾患の総称で、穿孔性腹膜炎、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、腸閉塞、卵巣出血・捻転・破裂などがありますが、疾患によっては診断・手術まで一刻の猶予も許されない場合もあります。それゆえホットラインによる迅速な患者さまの受け入れが重要になってきます。

・急性腹症センターの特徴

ではなぜ当院で急性腹症センター・ホットラインが運用できるのでしょうか。それには次のような内視鏡外科センター・内視鏡センターの診療実績と協力体制、および救急外来・画像検査部門・手術室など病院を挙げての取り組みがあるからです。

- 24時間365日、すべての検査を駆使して迅速で正確な診断
 - 9名の内視鏡外科技術認定医及び婦人科医・泌尿器科医による安心・安全で低侵襲な手術（手術決定から1時間以内の手術開始体制）
 - 吐血下血には内視鏡内科医（8名）で迅速に対応
- 「当院が最後の砦、ゆえに絶対断らない！」をモットーに長年培ってきた総合力は他の医療機関にはまねができないと自負しています。



・ホットラインの実際の流れ

日勤帯は救急外来担当医、当直帯は当直医（内科・外科）が常時ホットライン（専用電話）を携帯し、地域の先生方や消防隊からの問い合わせに直接答えられるようになっています。日勤帯であれば引き続き地域連携室担当者が、患者さまの情報などをお伺いし受け入れの準備をさせていただきます。時間外であれば担当医・救急外来看護師がそのまま対応させていただきます。救急車搬送あるいは自己来院されましたら、種々の緊急検査で診断をして緊急手術が必要と判断した場合、外科医・麻酔科医・手術室スタッフが招集され1時間以内に手術を開始できるよう準備します。担当医は電話あるいはファックスで来院の報告、手術が終われば手術報告書、退院時には退院報告書で随時先生に報告するようにしています。

・ホットラインの実績

2018年11月運用開始してからの実績は下記の図で示す通りです。開設以来22ヶ月でホットライン総数124件、うち緊急手術44件（37%）と待機手術9件（7%）で計53件（42.7%）の手術を施行しています。また緊急内視鏡検査・処置（止血、異物除去、捻転解除、胆道ドレナージなど）を29件（23%）施行しています。

すなわちホットライン124件のうち82名、実に66%の患者さまが手術あるいは内視鏡的処置を受けていることになります。このホットラインの重要性を再認識したと同時に、先生方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

今後も急性腹症（腹痛・吐血下血）を疑う患者さまがおられましたら、迷うことなく「急性腹症ホットライン」にご連絡をお願いします。

